



ゼミ紹介&募集

近世史ゼミを再開します

江戸時代の人びとの暮らしや社会の様子を知るために欠かせない資料として古文書(こもんじょ)があります。古文書は活字化された資料集などで読むこともできますが、飯田・下伊那には大量の古文書が残されており、活字で読めるものはその中のごく一部にしかすぎません。逆にいえば、筆で書かれた古文書の原文を読めば、これまで知られてこなかった江戸時代の姿に近づくことができるのです。

これを目標として、2018年度は休止していた近世史ゼミを再開することにしました。テキストは、飯田藩堀家の重臣が記した政務日誌といえる「飯田御用覚書」(下伊那教育会所蔵)です。とくに、堀家が下野国烏山しもつけからすやまから飯田へ移ってきた直後の延宝2(1674)年分を取り上げたいと思います。これを通して、江戸時代初め(17世紀)のこの地域で何がおこっていたのか、一緒に学びませんか。たくさんの方の参加をお待ちしています。

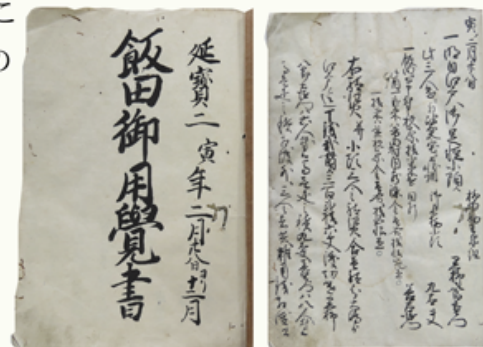
担当者:羽田真也(歴史研究所研究員)

開講日時:毎月第4水曜日18:30~20:30

会場:歴史研究所研修室

初回:5月22日(水)(ガイダンスを行います。当日参加も大歓迎です)

※参加費は無料です。



地域史ゼミを開始します

本ゼミでは、飯田・下伊那社会の歴史を、様々な角度から一緒に勉強していきたいと思います。特に近現代の社会や経済への理解を深めることを目標にしたいと思います。具体的には、以下の2つを中心に取り組みます。

①KAREN WIGEN“The Making of a Japanese Periphery ,1750-1920”の輪読

アメリカの日本史研究者が執筆したもので、江戸時代中期から大正期までの下伊那の地域形成や変貌を、歴史地理学的手法も用いて描き出しています。本ゼミでは、先行研究を参考にしながら、この本を少しずつ読み進めていく予定です。下伊那の歴史を、外国の視点から学んでみたいと思います。

②天龍社資料の輪読—蚕業技術員資料を通して

飯田市歴史研究所には、日本屈指の組合製糸であった天龍社の資料が多数所蔵されています。特に、「お蚕様の先生」として養蚕農家を巡回指導した蚕業技術員がのこした資料を輪読し、それを通して近現代における飯田・下伊那の社会を考えてみたいと思います。

以上の2つを、1回おきに実施していく予定です。どちらか一方のみの参加も歓迎です。参加いただく皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。誰でも楽しく取り組めるゼミにしたいと思います。お気軽にご参加ください。

担当者:太田仙一(歴史研究所研究員)

開講日時:毎月第2・第4金曜日18:30~20:30

会場:歴史研究所研修室

初回:5月10日(金)(ガイダンスを行います。当日参加も大歓迎です)

※参加費は無料です。

地域史講座を開催しました



旧木沢小学校での地域史講座



川路公民館での地域史講座

1月26日に旧木沢小学校で、多和田真理子氏（國學院大學、歴史研究所調査研究員）が昭和40～60年代の木沢小学校と地域の関係について報告しました。また、2月2日には川路公民館で、安岡健一氏（大阪大学、歴史研究所調査研究員）が戦時中の青年団活動について報告しました。安岡氏の報告後には、参加者それぞれの思い出や経験を語りあうワークショップも行われました。いずれも活気のある講座となりました。

羽田 真也（研究員）

研究助成報告会 を開催しました

2月28日、研究助成報告会を開催しました。壬生雅穂さんが、「ミチューリン会機関紙に見る農業技術運動の展開と変容」をテーマに報告を行いました。

1950年代の日本では、種子を冷蔵処理して増収をはかるミチューリン農法が下伊那を中心に流行しました。今回の研究では、流行を主導した下伊那ミチューリン会が刊行した機関紙が分析されました。運動の推進者である菊池謙一・農民・科学者の三者がそれぞれどのような思惑をもって運動の普及に取り組んでいったかが検討され、ミチューリン農法の下伊那における盛衰過程が明らかにされました。

報告の後には質疑応答が実施されました。実地の体験に基づいた質問も寄せられ、充実した議論が行われました。

太田 仙一（研究員）

2019年申請 研究助成募集

※詳細はホームページをご覧ください。

飯田・下伊那地域の歴史をテーマにした研究活動を助成します。

応募資格

- ・飯田市内または下伊那郡内に住所を有する団体
- ・大学の卒業論文または修士論文を作成するための研究を行う者

研究期間

2020年2月まで

助成の条件

- ・飯田・下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること。
 - ・新たに得た史料所在情報については、研究所に提供すること。
 - ・研究成果の口頭による発表を所定の時期に研究所で行い、併せて研究所の刊行物を通じて公表することを原則とすること。
- ※他の条件はホームページをご確認ください。

助成金額

団体および卒業論文…10万円以内
修士論文…15万円以内(2年度)

申請手続き

提出書類…助成申請書・研究計画書(様式は飯田市ホームページからダウンロードできます。)
提出期間…2019年5月7日(火)～7月2日(火)(必着)

審査方法

提出された研究計画書の内容及び聞き取り等により本事業に適した研究か審査します。

研究論文等の提出

提出期限…2020年2月29日(土)

助成金の交付

助成金の交付は、助成の条件等に関して必要な審査を行い、交付することが適当と認められたものについて、2020年4月までに行います。

市民研究員候補募集

※詳細はホームページをご覧ください。

飯田・下伊那の地域史研究などを担う市民研究員(ボランティア)を育成するため、市民研究員候補を募集します。

応募資格

飯田・下伊那の地域史研究に関心と問題意識をもち、市民研究員候補の期間内にオリジナルの研究成果を修了論文にまとめる意欲のある方

養成課程

- ・活動期間は2年間
- ・歴史研究所研究員の指導により研究論文を作成
- ・歴史研究所の諸活動に参加

募集人数

若干名

応募方法

研究テーマ・研究計画・志望動機を記入し、歴史研究所へ提出してください。(様式は飯田市ホームページからダウンロードできます。)

募集期間

2019年5月7日(火)～2019年7月31日(水)(必着)

審査結果

面接と書類審査を行い、8月末日までに審査結果をお知らせします。

飯田歴研賞2019候補作品募集

※詳細はホームページをご覧ください。

歴史研究所では、飯田・下伊那の地域史研究における優れた作品を発掘するため、「飯田歴研賞2019」の候補作品を募集します。

皆さんの推薦により候補となる作品を選出し、審査後に受賞作品が決まります。自薦他薦は問いません。ぜひご応募ください。

対象作品

2018年4月～2019年3月に刊行・発表された著書・論文(自費出版を含む)

応募方法

推薦作品を歴史研究所まで持参又は、郵送してください。

募集期間

2019年5月7日(火)～7月2日(火)(必着)

審査・表彰

歴史研究所で審査を行い、2019年度研究集会で優秀作品を表彰させていただきます。

「木沢小学校の史料研究」

多和田 雅保(歴史研究所顧問研究員・横浜国立大学)

科研費調査(*)の一環で、2017年から木沢小学校の史料調査に取り組んでいます。飯田の方は御存知だと思いますが、木沢は旧南信濃村のなかの1地区で、深い山々に囲まれた遠山谷の、遠山川と上村川が合流したあたりに中心集落があります。江戸時代には秋葉街道の宿場として機能し、大勢の人びとが行き来していたと思われます。この小学校は1872(明治5)年の設立以来、長年にわたって地元の重要な教育の拠点でしたが、人口減少の影響を受けて1991(平成3)年閉校、2000年には廃校となってしまいました。校舎は1932(昭和7)年建築の木造2階建てで、その後の動向が心配されましたが、地元有志による木沢地区活性化推進協議会の尽力により補修され、あらたに地域づくりの拠点として生まれ変わり、現在に至るまで維持されています。私も前から気になっていましたが、偶然機会を得て、本格的な史料調査を行うことになり、協議会の「三羽鳥」である松下規代志さん、前沢憲道さん、山崎博文さんの御厚意に甘えて作業に従事してきました。以来、充実した史料の内容に、刺激を受け続けています。

紙数も限られているので所感を1点だけ述べます。学校が戦前戦後を通じて地域の文化的中核であったことが、ここ木沢においてはかなり緻密に実証できそうだということです。「学校=文化的中核」であることをただいっただけなら簡単ですが、史料から実証するのは、やってみるとなかなか大変です。いかなる意味で中核であり、それがどのように変容したのかについて、閉校に至るまでの動きも視野に入れながら、総合的な地域研究のなかでいっい解き明かすことが、大きな意味を持つはずなのです。

重要なのは、よそから理論を借りてくるのではなく、地元の史料や人々に密着してそこから謙虚に学ぶことだと思います。地元の方々と情報を共有しながら、地に足の付いた成果を出していきたいと思っています。

(*基盤研究B「小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究」、課題番号17H0267、研究代表者多和田真理子)

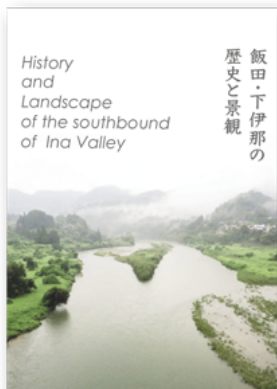
新刊
案内

『飯田・下伊那の歴史と景観』

2019年3月 刊行

飯田市教育委員会発行／飯田市歴史研究所編集

A5判 オールカラー 206頁 定価 2,000円(税別)



飯田・下伊那の
歴史と景観

第1章 台地とまち

1. 飯田 一城下町の現在と過去一
2. 松尾 八幡 一八幡宮と門前一
3. 鼎 下茶屋 一茶屋と職人の町一
4. 上郷 一野底山と段丘の町一
5. 座光寺 一段丘から川原にひろがる村一

第2章 街道と宿場

6. 和田・上町 一秋葉街道と宿場一
7. 駒場 一中馬街道と宿場一
8. 新野 一千石平と祭り一
9. 大平 一大平街道の盛衰と宿場一

第3章 河川と水運

10. 下久堅 南原 一橋と往来一
11. 川路・天龍峡 一治水と観光一
12. 御供・温田 一山峡の港町一
13. 平岡 一番所とダムのある町一

第4章 山林と山里

14. 立石 一千柿の里一
15. 吉岡 一下條氏の築いた城と町一
16. 下栗 一日本のチロル一
17. 清内路 一榑木と出作りの里一

本書では、飯田市及び下伊那郡を対象とした伊那谷南部の「歴史と景観」について考えます。巻頭には、近年、国際的に関心が高まっている「文化的景観」を解説する2本のエッセイを収録し、本論では「台地とまち」、「街道と宿場」、「河川と水運」、「山林と山里」の4つのテーマから、全部で17の地区や場所を取り上げます。わたしたちの身近な景観は、近年も変化し続けていますが、本書はそれらを歴史的な視点から見つめ直す試みといえます。

発売中

飯田市歴史研究所 年報16

飯田市歴史研究所 編 B5判 236頁 定価1,800円(税別)

【特集】地域の歴史を描く

- 多和田雅保 対話を通じて地域を描く
- 吉田治忠 鼎中平区誌編纂にあたって
- 渡邊義昭 ふるさと学習教材を作るにあたって
- 安岡健一 「個」の歴史から地域を見る
- 樋口貴彦 記憶としての景観
- 小平和夫 伊那市通り町一丁目商店街の街並み景観



2017年度の飯田市地域史研究集会では、「地域の歴史を描く」をテーマに、地域の歴史を調べて書き記すことの意義や今後の課題について考えました。特集はその成果をまとめたものです。また、小特集では、日記・聞き取り・自分史といった、民衆の生活を物語る歴史資料を取り上げて、その特徴を考察しています。そのほか、生類憐みの令が飯田藩へ与えた影響や、近世の上飯田村・山村を対象に借屋人の実態を分析した論考、引き揚げ者対策として実施された戦後開拓に関する調査報告などを掲載しています。ぜひ地域史研究の豊富な成果をお楽しみください。

【小特集】「日記・自分史・聞き取り」をめぐって

【研究ノート】

- 千葉拓真 生類憐みの令と飯田藩
- 速渡賀大 飯田藩領における借屋人の生活形態

【調査報告】

- 森武磨ほか 戦後福島県葛尾村松島共栄開拓

歴研ゼミ&ワークショップ 4月・5月の予定



受講生募集!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。
会場:歴史研究所 研修室

近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(調査研究員)

4月13日<<◎地域史講座(座光寺公民館にて)聴講>>
4月27日 / 5月25日 (第1・第3土曜日) 10:00~11:40

満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人(調査研究員)
齊藤俊江(調査研究員)

第91回 4月6日 (第1土曜日) 10:00~11:40
第92回 5月11日 ※5月は第2土曜日

地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)

5月10日(初回)・24日 (第2・第4金曜日) 18:30~20:30

近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)

5月22日(初回) (第4水曜日) 18:30~20:30

思想史ワークショップ 市民の皆さんが自主的に学び合う場

4月3日・17日 / 5月15日 (第1・第3水曜日) 19:00~20:40

自分史ワークショップ 市民の皆さんが自主的に学び合う場

4月27日 (第4土曜日) 13:20~15:00

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL:0265-53-4670

飯田アカデミア2019第87講座

戦前日本の農村社会をどうみるか
—長野県に視座を据えて—

6月29日(土)・30日(日)開催

- 講師 小島 庸平さん(東京大学)
- 会場 飯田市役所 C棟3階会議室(飯田市大久保町2534)
- 資料代 500円(2日間共通)※高校生以下無料

地域史講座

「近世座光寺村の生活と組」

江戸時代の座光寺村は、当時の一般的な村の規模から見れば、たいへん大きな村でした。幕末期には約300軒(1500人)が暮らしていました。こうした中で、人びとはどのような関係を築き、生活を成り立たせていたのでしょうか。今回の講座では、この点を、「組」というまとまりに注目して考えます。

開催日:4月13日(土)

時間:14:00~16:00

報告者:羽田 真也(歴史研究所研究員)

会場:座光寺公民館

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。
お気軽にお越しください。

開所時間:午前9時~午後5時

休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日